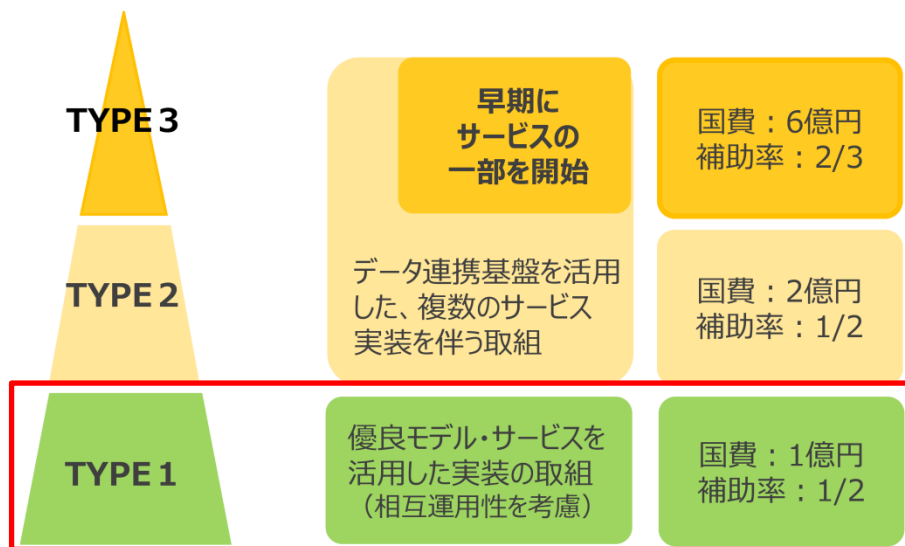


デジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）の 申請事業について

◆「デジタル田園都市国家構想交付金」デジタル実装タイプ TYPE1の概要

- デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方を活性化し、持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、地方からデジタルの実装を進めていくことが喫緊の課題。
- このため、デジタルを活用した、意欲ある地域による自主的な取組を応援するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けて、国が交付金により支援。

<デジタル田園都市国家構想交付金 TYPE別体系>



※申請上限数：都道府県 9事業 市町村 5事業

<要件(TYPE共通)>

- デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む
- コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係と連携し、事業を実行的、継続的に推進するための体制の確立

<対象事業の例>



<中長期的取組>

事例の採択・フォローアップや好事例の情報発信により、地域のデジタル実装を強力に支援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進。



- 01 給付費等管理システム導入事業
- 02 学校教育DX推進事業
- 03 介護保険認定業務システム導入事業
- 04 救急業務デジタル化事業
- 05 情報図書館デジタル化推進事業

01 給付費等管理システム導入事業

(1) 事業概要

教育・保育施設と個別のメールや郵送等で行っている給付費等の申請、算定等に係る事務処理を、クラウドシステムでデジタル化し、データを一括管理することで、教育・保育施設と本市の業務負担の軽減及び給付の最適化を図り、保育の質の向上につなげる。

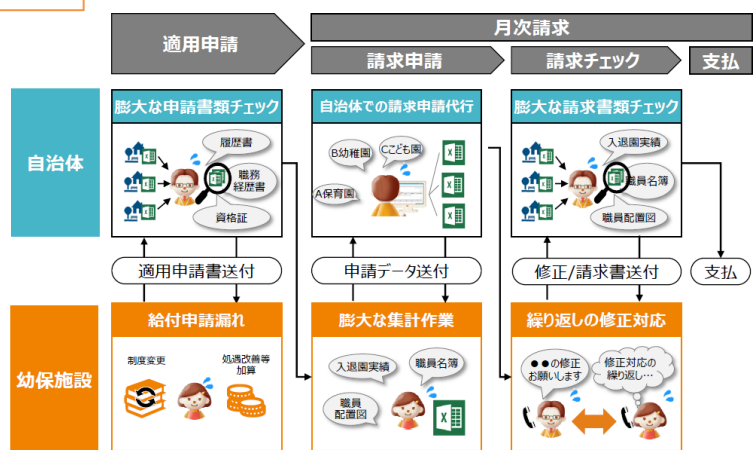
(2) 具体サービスの内容及び効果

◆ 給付費等管理システム

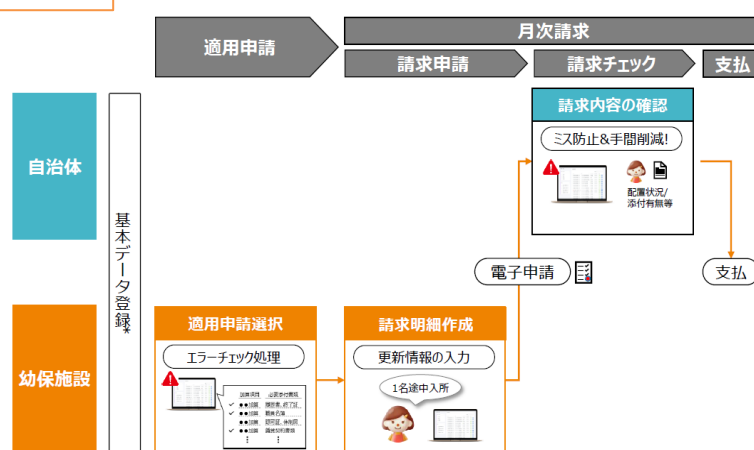
- 教育・保育施設の給付費等申請、請求書発行
- 実績データの外部出力機能
- 施設の職員配置状況管理
- 既存保育システムとのCSVデータ連携
- 途中入退所、差額計算、遡り一括処理機能

システム導入後	
難解な制度対応	制度判定をシステムで行うため、ユーザーの知見を必要としない
エラーチェック	システムでの判定(特許技術)
資料提出チェック	システムでの一覧管理(申請状況の見える化)
連絡・やり取り	原則、システムでのワンストップ(メール通知あり)

■ 導入前



■ 導入後



02 学校教育DX推進事業

(1) 事業概要

学校教育のDX推進のため、AIドリル、自動採点システムを導入し、児童生徒の習熟度に応じた個別最適な学習を支援し、学力向上を目指す。また、宿題の印刷や採点等の校務の効率化により、教員の時間外在校等時間の短縮や教員が児童生徒と向き合う時間の確保を後押しする。

(2) 具体サービス内容及び効果

① AIドリル

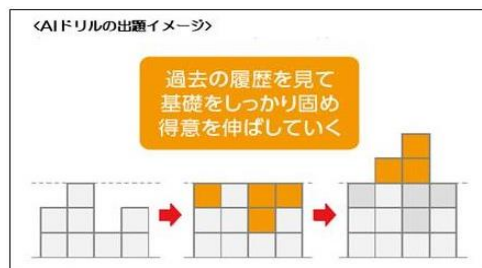
- 児童生徒一人ひとりに合った演習問題の出題
- 問題が解けない原因をAIが自動判定
- 個々の学び直しの把握(学年を超えた復習)
- 学習継続のサポート(苦手分野の把握)
- データ分析機能による教育のEBPMの推進

② 自動採点業務支援システム

- AIによるテストの採点・自動集計・成績分析
- 生徒用タブレット端末との連携
(答案や成績のデータの返却)

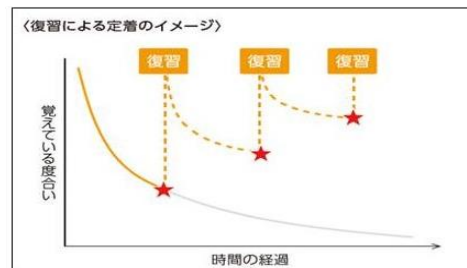
■ 過去の履歴も踏まえた出題ロジック

今取り組んでいる内容の状況だけでなく、これまでに取り組んできた学習履歴まで詳細に分析して最適な問題をおすすめする、独自のロジックを搭載。苦手を解消し、得意を伸ばす内容を出題します。



■ 適切なタイミングで復習を促し、理解を定着

理科・社会では、学習してからの期間に基づくレコメンドを行います。忘れてしまう前に復習を行うことで、重要な用語などをしっかり定着させていくのに役立ちます。



■ 自動採点のイメージ

青山 隼二 89

分野別結果

分野名	配点	得点	平均点	得点率 自分	得点率 全体平均
① 算利活用の技能	15	12	12.6	80.0%	84.0%
② 知識・理解	20	18	14.4	90.0%	72.0%
③ 読解・判断・表現	31	31	29.4	100.0%	91.6%
④ 社会的関心	34	30	29.6	88.2%	87.1%
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					

度數分布表

■ 個人成績表のイメージ

科目名	満点	得点	平均点	得点率 自分	得点率 全体平均	偏差値	順位	受験者数	最高点	最低点
テスト	100	89	85.0	89.0%	85.0%	56.1	2	5	93	74

分野別結果

分野名	配点	得点	平均点	得点率 自分	得点率 全体平均
① 算利活用	15	12	12.6	80.0%	84.0%
② 知識・理解	20	18	14.4	90.0%	72.0%
③ 読解・判断・表現	31	31	29.4	100.0%	91.6%
④ 社会的関心	34	30	29.6	88.2%	87.1%
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					

分野別得点率グラフ

03 介護保険認定業務システム導入事業

(1) 事業概要

要介護等認定の申請者が年々増加している影響で、業務量が増大し、認定までに要する日数も長期化しており、介護保険を利用したい被保険者に対し適切・迅速なサービス利用に繋げることができないという課題がある。

業務のデジタル化により、上記課題解決に着手し、認定の迅速化・適正化を図るなど、被保険者へのサービス向上を実現する。

(2) 具体サービス内容及び効果

◆ 認定調査システム

▶ タブレットを用いた訪問時の調査票作成

- 選択項目等のAIチェック機能
- 特記事項のテンプレート活用による効率化
- 入力データのアップロードによる調査票作成
- スケジュール管理機能
- 画面転送型アプリによるセキュリティ向上

現状

訪問時に持参する紙の調査票に手書きで記録し、帰庁後、パソコンに必要事項を入力し特記事項等を清書

導入後

リアルタイムでの入力や次の訪問までの待ち時間に調査票等の作成が可能となり、調査票完成までの日数短縮



認定までに要する日数が長期化する要因の1つである認定調査を、申請後迅速に実施し、認定までに要する日数を短縮することで、市民への迅速な介護サービスの提供を実現

04 救急業務デジタル化事業

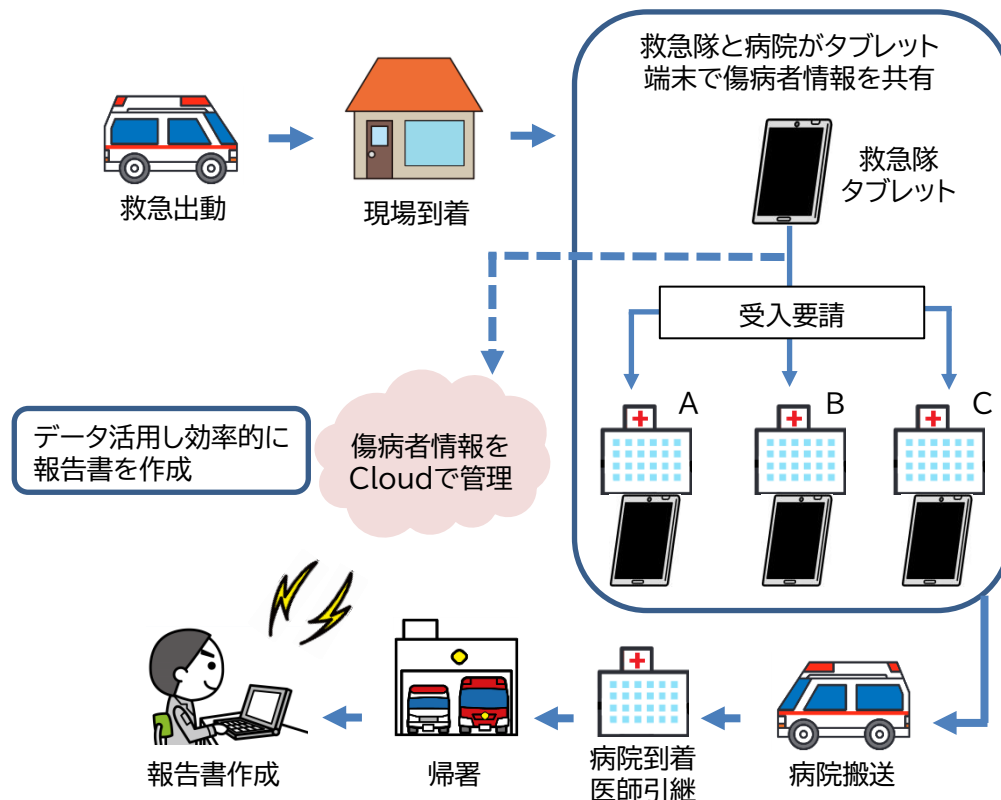
(1) 事業概要

高齢化の進展などにより、市民からの救急要請は年々増加傾向にある中、救急需要の複雑多様化も加わり、救急活動時間の延長が課題となっている。こうした課題を踏まえ、市民を適切な医療機関へ迅速に搬送するため、ICTを活用して医療機関への受け入れ要請や引継ぎ業務の効率化を進め、迅速な搬送と救急活動時間の短縮を目指す。

(2) 具体サービス内容及び効果

◆ 救急医療支援システム

- 従来、救急隊が受け入れ先が決まるまで繰り返し行っていた電話方式からシステムを活用したデジタル方式にすることで、複数の医療機関へ一括データ送信によって情報共有が迅速化されるとともに、受け入れ要請や医療機関の受け入れ判断が効率化され救急活動時間の短縮を図る。
- 傷病者の情報がデジタル化されることで、電話方式に比べ伝えづらさや言い間違いがなくなり、医療機関へ迅速かつ正確な引継ぎが可能になる。
- タブレットに入力した現場活動情報をもとに現場活動後の活動報告書作成業務の自動化を図る。



05 情報図書館デジタル化推進事業

(1) 事業概要

図書館での資料貸出において、自動貸出機や予約棚によるセルフサービスを進め、利用者のプライバシー保護に配慮したより便利で快適に利用できる図書館サービスを提供するとともに、不正持ち出しによる資料の亡失防止、蔵書の適正管理と業務効率の向上を目指すなど、情報図書館のデジタル化を推進する。

(2) 具体サービス内容及び効果

◆ ICタグシステム(自動貸出、予約受取サービス)

- 自動貸出機の設置により、非対面・非接触で利用者のプライバシー保護を図るとともに、貸出時間を短縮する。
- 予約資料の受取・貸出をセルフサービス化することにより、利用者のプライバシー保護を図るとともに、職員の資料整理、貸出処理の時間を大幅に短縮する。
- セキュリティゲート設置により資料の紛失を防止し、書庫にある高価本や貴重な資料の開架を進める。
- 誤配架された資料の探索を容易にし、不明資料の削減や蔵書点検業務を省力化することにより、図書館サービスの向上を図る。
- 蔵書点検業務や貸出・返却処理を省力化することにより、図書館サービス向上に注力する。

